



VALQUA GROUP

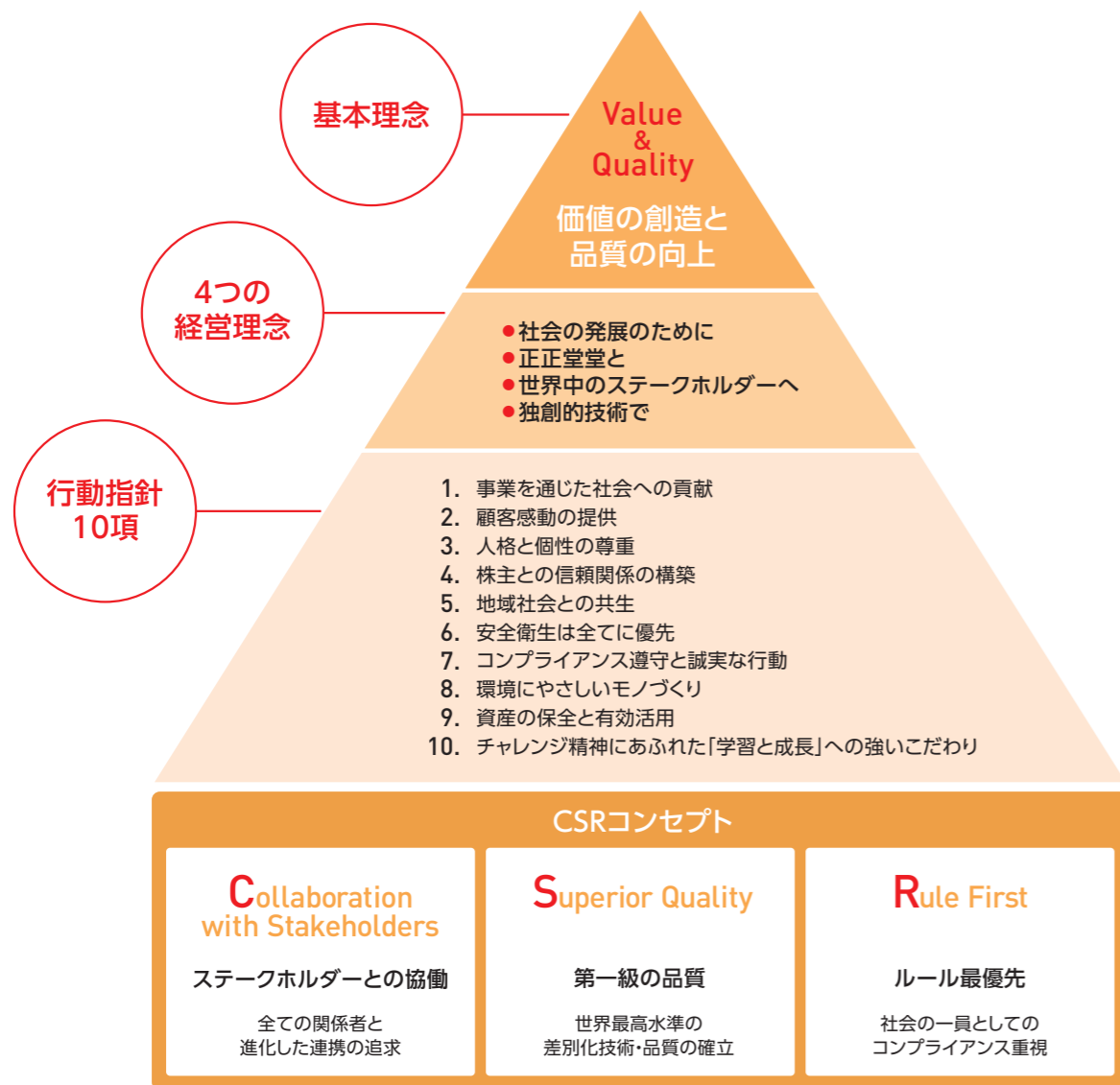
Sustainability Report

2021



THE VALQUA WAY

バルカーグループの企業理念「THE VALQUA WAY」は、社名の由来であり基本理念でもある「Value & Quality」、それをさらに社員が理解し実践しやすくした「4つの経営理念」、そして「行動指針10項」で構成されています。この深い理解と実践こそが、当社グループのCSRの基盤となっています。また、2007年から「THE VALQUA WAY」を基盤に3つのCSRコンセプトのもと、さまざまな社会課題の解決に向けたより実践的な活動を行っています。



CONTENTS

企業理念	02
目次・編集方針	03
トップメッセージ	04
バルカーと社会との関わり	06
SDGsの考え方および方針	08
CSRマネジメント	09
CSR活動の重要課題	10
特集1 人材ダイバーシティの推進 「From VALQUA KOREA」に チャレンジするローカル人材	12
特集2 ビジヨナリー経営 変化の激しい環境だからこそ、 大切なビジヨナリー経営	14
コーポレートガバナンス	
01. 企業理念の浸透	16
02. コーポレートガバナンスの強化	17
03. グループグローバルな活動の推進	18
04. ステークホルダーとの対話	18
コンプライアンス	
05. 汚職・贈収賄の防止	19
06. 法令等の遵守	20
07. 環境関連法令等の遵守	21
環境	
08. 環境負荷物質の漏出防止と低減	22
09. 事業上の環境負荷物質の低減	22
安全衛生	
10. 労働安全衛生	24
サプライチェーンマネジメント	
11. CSR調達	25
人材・人権	
12. 人材の多様性確保	26
13. 人権の尊重	27
14. 人材育成	27
顧客満足	
15. 品質の向上と顧客の安全・安心	28
コミュニティ	
16. スポーツ・文化・芸術の振興 地域社会との共生	29
会社概要・拠点図	30

編集方針

本レポートは、バルカーグループの持続的成長に向けた基本的な考えと、CSR活動の重要課題に沿った取り組みをステークホルダーの皆さまにお伝えするため、年1回発行しています。一部データはWebサイトのみで開示しています。それぞれ掲載予定先となるURLを記載しています。

報告対象期間

2020年4月1日～2021年3月31日
報告の一部に上記対象期間前後の内容を含みます。なお、体制図、方針、基準などは、2021年6月現在のものです。

対象範囲

株式会社バルカーおよびその連結子会社18社
(障がい者雇用率、女性管理職比率はバルカー単体の数値としています)

発行時期

2021年6月発行(前回発行2020年7月)

報告媒体

冊子・PDF版	重点的な取り組みを年次レポートとしてまとめています。 [CSR報告書] http://www.valqua.co.jp/social/report/	
Web版	Webサイトには最新情報・追加情報を網羅的に掲載し、随時更新しています。 [技術情報][IR情報] [会社情報]など http://www.valqua.co.jp/	

企業理念「THE VALQUA WAY」のもと、 健全で持続的な成長と持続可能な社会の実現のために



はじめに

新型コロナウイルス感染症の拡大により、亡くなられた皆さまのご冥福をお祈りするとともに、影響を受けられた全ての皆さまに、謹んでお見舞い申し上げます。

2020年、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大は、我々の生活に大きな変化をもたらしただけでなく、自動車、輸送交通、航空、小売り、飲食などあらゆる産業、経済に大きな影響を与えています。当社グループはこのような事業環境下、2020年から開始した3か年中期経営計画「New Frontier 2022(以下NF2022)」に沿って、業績への影響を最小限に抑えるための対策を速やかに実行してきました。その一例として、感染拡大防止と従業員の安全確保に加えて「働き方改革」を推進するためのリモートワーク推進プロジェクトを発足し、また、IoTやデジタルを駆使したDXにも力を入れています。

本レポートにはこのような取り組みに加え、「企業活動とSDGs目標の紐付け」を掲載するなど、サステナビリティに関する情報を拡充して掲載していますので、ぜひご覧ください。

創業100周年のありたい企業像

未来と未知に挑むチャレンジングな企業
— 人類の豊かさや地球環境に貢献するために —

1. あくなく成長戦略の追求とモニタリング
2. 成長をゆるぎないものにする経営基盤の強化
3. より良い地球市民として「環境・社会・企業統治」への積極的な取り組み

2027年3月期経営目標

・連結売上高 800億円 ・連結 ROE15%

創業100周年(2027年)、 SDGs開発目標(2030年)に向けて 「未来と未知に挑むチャレンジングな企業」

バルカーグループはかねてから、企業理念「THE VALQUA WAY」を中心としたビジョナリー経営に力を入れています。

社名の由来であり基本理念でもある「Value & Quality(価値の創造と品質の向上)」の企業文化の醸成を強固にするために、「THE VALQUA WAY」を全従業員が、「MY VALQUA WAY」としてブレイクダウンし、実践する取り組みを毎年行うなど、「THE VALQUA WAY」を確実に浸透させるための活動を行っています。

昨年4月には、事業活動を通じて人類の豊かさや地球環境に貢献するために、創業100周年のありたい企業像「未来と未知に挑むチャレンジングな企業」を掲げましたが、この取り組みの根底にあるのは「THE VALQUA WAY」であり、この考え方、価値観は持続可能な開発目標(SDGs)が目指すものと一致しています。

また、本年度は「企業活動とSDGs目標」の紐付けを行い、「本業(H&S事業)を通じた社会的課題解決(攻め)」と「経営基盤(ESG)の強化(守り)」に、「社会貢献活動」を合わせた3つを軸とした活動を推進し、SDGs貢献への取り組みを強化しています。

「本業を通じた社会的課題解決」では、製品やサービスを通じた環境配慮などへの取り組み、「経営基盤の強化」では、ガバナンスや事業上の環境配慮、サプライチェーンマネジメント、人材育成などの強化、「社会貢献活動」では、ボールルームダンス支援や「地域社会に対する感謝の日」などを通じた活動を行っています。

バルカーグループはこれまで、創業以来長い歴史の中で、戦後の混乱期、バブル崩壊、リーマンショックなどさまざまな危機に直面してきましたが、バルカーの強みであるパイオニア精神でそれを乗り越えてきました。2027年に迎える創業100周年に向け、このように社会が大きく変わらざるを得ない状況でも、創業以来培ってきたパイオニア精神で、「THE VALQUA WAY」のもと、先入観に捉われないニュートラルな視点で、新たな付加価値を創造し、さらなる成長のため、SDGs、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

CSR活動の重要課題に「人材育成」を加え、 CXによる変革の推進力につなげる

バルカーグループは、「人材」こそが最も重要な財産と位置付け、「バルカーグループ人権基本方針」を制定し、従業員のダイバーシティ化を進め、多国籍のローカル人材の育成に力を入れてきました。NF2022では、「人材育成のための大胆な投資の加速」と「グローバル人材の活性につながるダイナミックな施策の実行」を掲げ、CSR活動の重要課題に新たに「人材育成」を加え、CEO塾、早期選抜研修、海外幹部研修などにより、近い将来拠点経営を担うコア人材の開発を進めています。

また、グループの全従業員のエンゲージメント向上を目標とした取り組みも開始しました。人材育成の強化とエンゲージメント向上の両面により、労働生産性の向上やCX^{*}による変革の推進力につながるものと期待しています。

※ CX: コーポレートトランスフォーメーションの略。

最後に

バルカーグループの経営理念の一つに「世界中のステークホルダーへ」、また、CSRコンセプトの一つには、「ステークホルダーとの協働」があります。バルカーグループは、これまでステークホルダーの皆さまに支えられ、今や8カ国で事業を展開し、多様な従業員が活躍するグループへと成長してまいりました。

これからも創業100周年を超えて次なる時代にさらなる健全で持続的な成長を実現するために、グループが一丸となり、ステークホルダーの皆さまと共に、人類の豊かさや地球環境に貢献すべく、私たちは着実に歩みを進めてまいります。

引き続き、当社グループの事業へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2021年6月

バルカーグループ代表
株式会社バルカー 代表取締役会長 CEO

龍澤利一

バルカーと社会との関わり

私たちの“製品&サービス”が
さまざまなところで活躍しています。

A 宇宙ロケット・人工衛星

メタル中空リング

宇宙空間においても漏れを防ぐほどの高機能ガスケットで、ロケットや人工衛星の他、高温・高圧・高真空が要求される機器に使用されています。

B 工場・オフィス

LED照明

低消費電力で長寿命が特徴の製品です。豊富なラインアップで、幅広いニーズに対応可能であり、環境負荷の低減にも貢献しています。

C 医療機関

ふっ素樹脂切削テープ

ふっ素樹脂を高度な技術で切削した気密性・摺動性に優れた製品で、注射器用滑栓などに使用されています。

D 自動車

オートマチックトランスミッション(AT)用ガスケット

ATを制御する油圧コントロール装置(バルブボディ)に使用されるガスケットで、装置内の油をシールすることにより滑らかに応答性の良い変速を行うために使用されています。

E 船舶

グランドパッキン

作動軸周辺からの漏れを防ぐ製品で、流体の搬送や遮断といった機能を担う回転ポンプやバルブで、主に使われています。

ジョイントシートガスケット

幅広い流体に対応する性能を持つ汎用ガスケットです。船舶・プラントなどの他、住宅設備などあらゆるシーンで活躍しています。

F 製鉄プラント

高機能シートガスケット

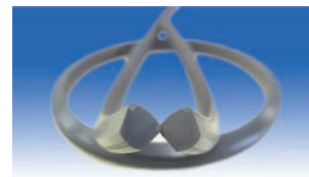
従来の製品の性能を大きく上回り、特に高温耐性が要求されるプラントで活躍しています。

うず巻形ガスケット

金属の補強をつけた製品で、高温・高圧で運転されるプラントの安全操業を支えています。

回転軸シール(LFR SEAL®)

摺動性に優れたシール材で、各種生産用機器の回転および揺動部向けに開発されました。



ふっ素樹脂ライニングボールバルブ

化学薬品に強いふっ素樹脂を接液部全面に採用し、幅広い種類の流体の制御に活躍しています。



G 化学プラント

ふっ素樹脂ライニング鋼管

化学薬品に強い、表面が平滑である、などのふっ素樹脂の特性を生かし、中を流れる流体の純粋性を保っています。



ふっ素樹脂ガスケット

化学薬品に強い素材でできており、配管や機器のつなぎ目から薬液やガスが漏れるのを防いでいます。



N 変電所

ふっ素樹脂加工品

高い絶縁性能を生かし、落雷の影響を無くす機器や送電量をコントロールする機器で用いられます。



M 半導体工場

再生シリコンウエハー

半導体製造装置の動作チェックなどで使用されたシリコンウエハーを、独自のノウハウで研磨・洗浄し、新品同様に再生・提供することで、環境負荷低減に貢献しています。

ふっ素樹脂ライニングタンク

ふっ素樹脂シートで内貼りした薬液用タンクで、半導体製造で用いられる超高純度の薬液の貯蔵、搬送に欠かせない製品です。



高機能エラストマー

不純物の少ない特殊なゴムに表面処理を施した製品で、半導体製造に不可欠なクリーンな環境を保っています。

ボンデッドゲートシール

高機能エラストマーと金属の一体型シールです。高いシール性を持ち、シリコンウエハーの搬入口に用いられています。



L 携帯電話基地局・自動車

ふっ素樹脂基板

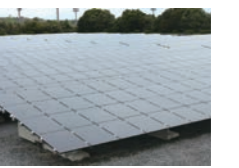
PTFEの優れた電気特性と耐候性を生かした基板材料がアンテナ機器周辺および自動運転にも使用され、安全・高速・大容量通信の実現に寄与しています。



K 太陽光発電

太陽光発電事業

九州バルカーの敷地内に設置されたメガソーラーは、日々クリーンなエネルギーを生み出し、地球環境の保全と地域への貢献につなげています。



J 建設機械

Oリング

静的・動的シールの代表的な製品で、用途に応じたゴム材料を使用することにより幅広い産業からのニーズに対応しています。



スラストプレート

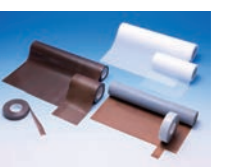
ショベルカーなどのヒンジ可動部の隙間に組み込まれ、隙間調整、鳴き防止、カズリ防止などの役割を担っています。



I ポータブルメディア

ふっ素樹脂テープ

高い絶縁性と優れた加工性をもち、通信機器の性能向上と小型化に貢献しています。



H シールエンジニアリングサービス

STC(シールトレーニングセンター)

バルカーの持つシールエンジニアリングテクノロジーをお客さまと共有し、プラントの安全な操業、機器の確実な作動につなげています。シール材の選定や適切な使用方法についての座学と、現場の配管フランジを模擬した実習を行う体験型研修施設で、人材育成の場を提供しています。

H&S デモカー

新たに開発・取り扱いを開始した製品&サービスをデモ実演および体験を通じて全国のお客さまに紹介しています。



SDGsの考え方および方針

バルカーグループは地球市民の一員として、企業活動を通して社会課題の解決に取り組み、SDGs、持続可能な社会の実現のために貢献してまいります。

SDGs貢献への取り組み

バルカーグループは、2007年から「THE VALQUA WAY」を基盤に、さまざまな社会課題の解決に向けたCSR活動を行っています。これらの活動に、2015年に国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）などのグローバルな視点を取り込むため、2019年度にCSR重要課題の整理を行いました。

さらに、2020年4月からスタートした、創業100周年のあり

たい企業像「未来と未知に挑むチャレンジングな企業—人類の豊かさや地球環境に貢献するために—」の基本方針の一つに、「より良い地球市民として『環境・社会・企業統治』への積極的な取り組み」を掲げました。

これにより、今まで以上に効果的にSDGsに貢献できるよう、「本業（H&S事業）を通じた社会的課題解決（攻め）」「経営基盤（ESG）の強化（守り）」に、「社会貢献活動」を合わせた3つを軸とした活動を推進しています。

CSRマネジメント

バルカーグループは、地球市民としてさまざまな社会課題の解決に積極的に取り組むため、「バルカーグループCSR推進委員会」を設置し、CSR重要課題ごとの活動の進捗を確認、総括する仕組みを構築し、継続的に運用しています。

CSRの考え方

バルカーグループはCSRを、企業理念「THE VALQUA WAY」の実践、企業活動そのものと考えています。

また、2007年から「ステークホルダーとの協働（C）」「第一級の品質（S）」「ルール最優先（R）」の3つのCSRコンセプトのもと、年々多様化するさまざまな社会課題に向けた、より実践的な活動を行っています。

盤（ESG）の強化（守り）」に、「社会貢献活動」を合わせた3つを軸とした活動を推進しています。

これからも、お客さま、株主、取引先、従業員、地域社会などのステークホルダーとの対話を大切にして、企業価値を創造し続け、持続可能な社会に貢献してまいります。

CSR推進体制

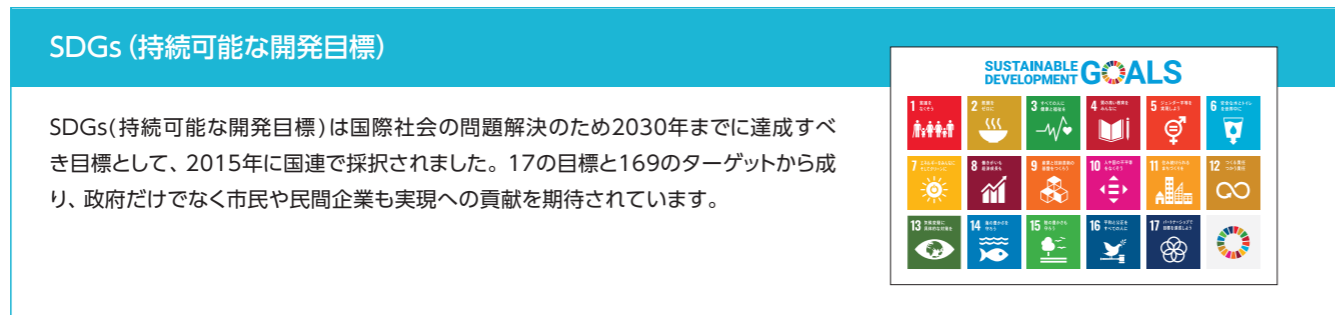
バルカーグループは2007年に「CSR協議会」を設置し、組織横断的な体制を整えました。その後、2019年度より事業視点でCSR活動の強化を図るため、「バルカーグループCSR推進委員会」へと体制を変更しました。

「バルカーグループCSR推進委員会」をグループ全体のCSR活動を議論する重要な会議体として位置付け、専務執行役員を委員長として、半期に1回定期的に開催する他、必要に応じて適宜開催し、各部門の推進するCSR活動の進捗状況の報告や意見交換などを行い、グループ内の連携を強化しています。また、その結果を半期ごとに常務会で報告しています。

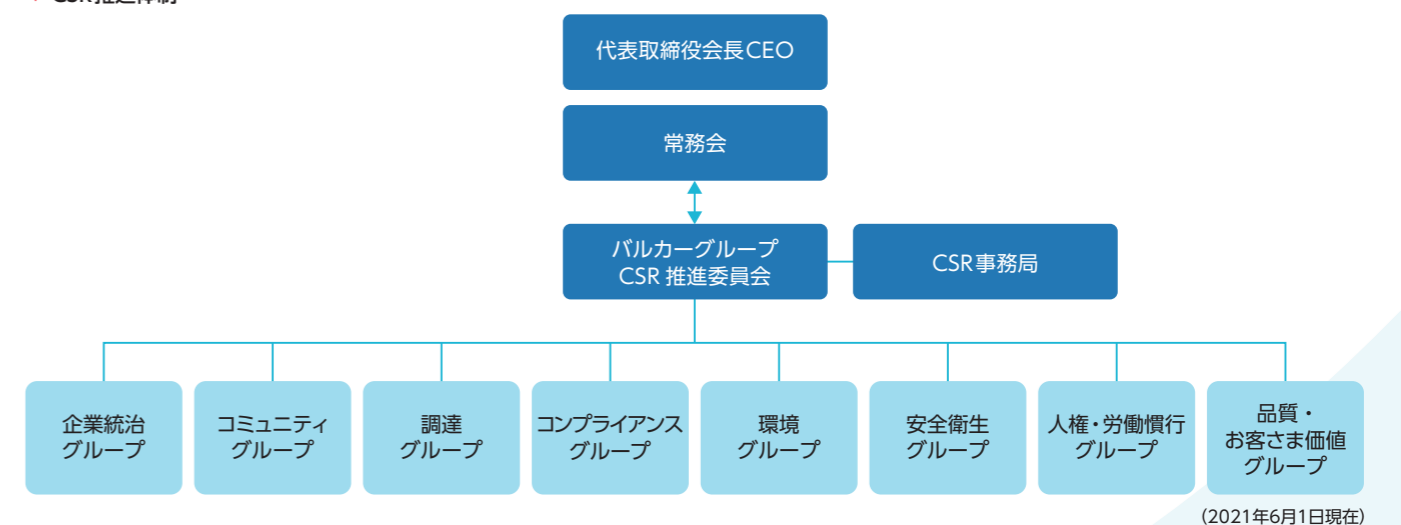
持続可能な社会のために

バルカーグループは、企業理念「THE VALQUA WAY」のもと、たゆまぬ成長を目指して日々挑戦を続けています。

2020年度には「創業100周年のありたい企業像」を反映し、今まで以上に、より効果的にSDGsに貢献できるよう、コーポレートガバナンス、コンプライアンス、環境、サプライチェーンマネジメント、安全衛生、人材・人権、顧客満足、コミュニティを重点領域としていたCSR活動にSDGsの紐付けを行い、さらに「本業（H&S事業）を通じた社会的課題解決（攻め）」「経営基



▼ CSR推進体制



CSR活動の重要課題

バルカーグループは、健全で持続的な成長を実現するため、持続可能な社会の実現に貢献するために、さまざまな社会課題を把握、整理した上で、CSR重要課題を特定しました。また、2020年度、CSR重要課題とSDGs（持続可能な開発目標）との紐付けを行い、SDGs 貢献への取り組みをより強化しています。

重要課題	何故・何のために	基本的な方針	主な取り組み	貢献するSDGs	
コーポレートガバナンス	01. 企業理念の浸透	企業理念「THE VALQUA WAY」を中心にしたビジョナリー経営により健全で持続的な成長を目指すため	「THE VALQUA WAY」を日々の活動基盤とする	1)「THE VALQUA WAY」浸透推進委員会を中心とした浸透活動 2)「THE VALQUA WAY」理解と実践活動 階層別全社大会の開催	
	02. コーポレートガバナンスの強化	社会的責任を果たすための有効な意思決定の仕組みを持つことが重要であるため	「THE VALQUA WAY」のもと経営体制を構築し、その充実に努める	グローバルガバナンス体制の強化と、情報開示拡充のための取り組み	
	03. グループグローバルな活動の推進	グローバルな課題の解決には、グループが一体となって取り組む必要があるため	経営理念の「世界中のステークホルダーへ」、課題解決のために、バルカーグループ一体となって取り組む	グループ全体でのCSR活動、SDGs貢献活動の推進とサステナビリティ情報の拡充への取り組み	
	04. ステークホルダーとの対話	対話を通じて相互理解を深め、共通の社会的課題の解決に取り組むため	CSRコンセプトの「ステークホルダーとの協働」を図り、グローバルな課題解決につなげる	ステークホルダーとの対話機会の拡充のための取り組み	
コンプライアンス	05. 汚職・贈収賄の防止	贈収賄防止はもとより疑義が生じる行為も防止するため	行動指針の「コンプライアンス遵守と誠実な行動」のもと、「コンプライアンスマニュアル」に基づいた業務を遂行する	汚職・贈収賄の防止を含むリスク・コンプライアンス強化と、情報開示拡充のための取り組み	
	06. 法令等の遵守	社会的責任を果たし、期待に応えていくために、コンプライアンス経営の徹底を図る	行動指針の「コンプライアンス遵守と誠実な行動」のもと、「コンプライアンスマニュアル」に基づいた業務を遂行する	法令遵守の実効性をさらに高めるための取り組み、開示拡充のための取り組み	
	07. 環境関連法令等の遵守	年々強化される環境汚染防止の法令違反による事業活動への影響を回避するため	行動指針の「コンプライアンス遵守と誠実な行動」のもと、「コンプライアンスマニュアル」に基づいた業務を遂行する	環境リスク・コンプライアンスの徹底	
環境	08. 環境負荷物質の漏出防止と低減	高度な技術を生かし、環境負荷物質低減につながる製品やサービスで低炭素社会の実現に貢献するため	CSRコンセプトの「第一級の品質」により、技術を向上させ、課題解決に資する製品や技術を提供する	環境汚染対策など社会課題解決のための製品、サービスの開発と展開	
	09. 事業上の環境負荷物質の低減	モノづくり企業として社会的責任を果たすため、環境に与えるマイナスの影響を最小化する事業活動を行うため	行動指針の「資産の保全と有効活用」のもと、環境資源を考慮した活動を行う	事業上排出される環境負荷物質の低減活動	
安全衛生	10. 労働安全衛生	健康と安全に配慮した働きやすい職場環境を整え、従業員の幸福と事業の発展へつなげるため	行動指針の「安全衛生は全てに優先」のもと、働きやすい環境をつくる	労働安全衛生活動の推進	
サプライチェーンマネジメント	11. CSR調達（紛争鉱物対応）	サプライチェーンのグローバル化に伴って複雑化した問題を解決するため	「調達基本方針」に基づいた業務を遂行する	CSR調達ガイドラインに基づいた調達活動の啓蒙活動と推進	
人材・人権	12. 人材の多様性確保	多様な人材が個性を生かし、自らの価値を高め成長できる環境を整備し健全で持続的な成長へつなげるため	行動指針の「人格と個性の尊重」のもと、従業員の多様性、人格、個性を尊重し、能力発揮しやすい環境をつくる	多様で柔軟な働き方の支援	
	13. 人権の尊重	行動指針の「人格と個性の尊重」のもと、啓発活動を通して人権への配慮を徹底する	「バルカーグループ人権基本方針」に沿った事業活動の遂行	人権に関するさまざまな国際規範の理解と啓発活動の取り組み	
	14. 人材育成	自社の事業の発展に貢献できる人材を育成するため	行動指針の「チャレンジ精神にあふれた『学習と成長』への強いこだわり」のもと自ら考えながら、新たなことに挑み続けることができる人材を育成する	1)バルカーパーソンの育成 2)グループ経営を担うコア人材の開発 3)拠点経営を担うコア人材の開発 4)各事業部・各社での人材の育成	
顧客満足	15. 品質の向上と顧客の安全・安心	国内外のお客さまの安全面での課題を共に解決し、安心と満足を提供するため	行動指針の「安全衛生は全てに優先」のもと、自社だけではなく、国内外のお客さまの安全衛生も提供する	1)製商品の品質の管理と、安全な使用のための情報提供・サービス 2)お客さまの安全・安心のための製商品、サービスの展開	
コミュニティ	16. スポーツ・文化・芸術の振興 地域社会との共生	スポーツ振興支援や、地域に根差したCSR活動を通じて、安全安心で豊かな社会づくりに貢献するため	行動指針の「地域社会との共生」のもと、スポーツ振興支援や、地域に根差した社会貢献を行う	1)ポールルームダンス発展のための支援を通じた社会貢献活動 2)事業所周辺の緑化活動、寄付活動などの社会貢献活動	

CSR重要課題(マテリアリティ)の特定プロセス

Step 1 社会課題の認識

GRIスタンダード、ISO26000、国連グローバル・コンパクト、SDGs（持続可能な開発目標）、RBA行動規範などの国際的な基準・ガイドラインを参考に、社会課題項目を洗い出しました。

Step 2 ステークホルダーにとっての優先度の特定

Step1で洗い出した社会課題項目に対して、各種評価機関の調査や顧客アンケートなどにおける注目度を指標化し、ステークホルダーにとっての優先度を特定しました。

Step 3 社会課題のマッピング・重要課題の特定

Step1で抽出した社会課題項目を、Step2で特定した「ステークホルダーにとっての優先度」と「バルカーグループにとっての優先度」の2つを座標軸としたマトリクス図表へマッピングし、優先度上位の項目を重要課題としました。

Step 4 重点課題の決定

2019年度バルカーグループのCSR重点課題が決定し、新CSR活動計画がスタートしました。

Step 5 重点課題のPDCAマネジメント・見直し

2020年度、同年スタートした中期経営計画「New Frontier 2022(NF2022)」の基本方針を反映し、CSR重要課題に「人材育成」の追加を決定しました。また、2020年度CSR重要課題を含む「バルカーグループの企業活動」と「SDGs目標」との紐付けを実施しました。

今後は、より具体的な目標指標の策定を推進しながら、社会動向に応じて継続的に見直しを図ってまいります。

特集1 人材ダイバーシティの推進

「From VALQUA KOREA」に チャレンジするローカル人材

貢献するSDGs



(本稿は本人の日本語執筆に加筆・修正をしています)



バルカーとの出会い

私は2003年に大学を卒業後、エンジニアを目指して専攻していた製造業界でキャリアを積みことにしました。当時の韓国はIMFの管理体制に入る深刻な経済危機（1998年）を経験しており、企業は経営戦略の転換を迫られ、構造改革に足掻いていました。そんな環境の中で働いた最初の韓国企業で、日本企業と技術協業をすることになり、技術的な課題へのアプローチの仕方、信頼を得やすいスタイルなど、日本の独特の企業文化に好意的な興味を持つようになりました。そして2013年に転職をした際、日系企業で働くことを希望していた私はバルカーコリアに入社し、新設の工場の立ち上げに奮闘することになりました。

バルカーコリアに入社してから自分にとって一番印象的だったのは、会社の価値観を明文化した「THE VALQUA WAY」でした。バルカーグループは「THE VALQUA WAY」という企業理念を全組織・従業員に発信し続け、皆に自分たちがどのような価値を社会へ提供しようとしているのか、どんな使命を掲げているのかを問い続け、それを理解できるようにしていました。私も以前の会社で持っていた旧態依然とした自分の思考が次第に変わっていくことを実感できました。

「Value & Quality」の シール製品づくりへの挑戦

入社してすぐに私は技術課に所属し、新規製品の移管と新たな製造工程やクリーンルームの立ち上げ業務を担当しました。シール製品について全く知識と経験がなかった私と当時の韓国スタッフは小さな事象でも発生すると対応ができない状態でした。一番大きい問題は、一見単純に見えるシール製品の製作は、非常に繊細な管理を必要とするということです。マザー工場と同じ製法で作っても、周囲の環境や機械の微細な状態の違いなどによって仕上がりが異なりました。マザー工場からの生産

移管という大きなミッションは、その要因を全種類の製品に対して見つけ出し、移管スケジュール内に完了させるという、非常に厳しく、重いプレッシャーを受けざるを得ませんでした。

試行錯誤が続く中でも挫折や断念に至らなかったのは、当社の社名の由来でもある「Value & Quality」という基本理念があったからです。妥協しないバルカーのモノづくりへの精神は、厳しい状況の中でも諦めずに努力し続ける力となり、膨大な量の社内資料の整備と度重なる設備の導入、外注先への技術指導、社内生産技術の安定まで蹉跌せず、生産移管は無事完了しました。そして2016年には新たに工場を増築、さらに生産量をアップして安定的な製品の供給ができる体制になりました。



新設備を説明している様子

事業の拡大とその目標を 徹底的に考え抜く

2016年からは、日本からの駐在員より技術課の課長業務を引き継ぎました。同年に瀧澤CEOによるラーニングに参加した時、瀧澤CEOから管理職としてのマネジメントと従業員育成の面でバルカーが目指している方向性についてご指導いただき、深い感銘を受けたことを今でも鮮明に覚えています。私は、瀧澤CEOが教えてくださった理想に符合する人物としての役割を達成したい、そのためには私自身の技術的な知識を深め、実力を備えないといけないと期待と共に課題を痛感しました。



2019年フォーラム後、瀧澤CEOと

ル製品の新規生産ラインを第三国にさらに立ち上げることが決定され、バルカーコリア技術課は立ち上げまでの全ての諸般活動に取り組みました。初期検討に始まり、海外支援での立ち上げまで遂行することは、大変なこともありましたが、立ち上げたラインで想定通りの生産ができた時は、非常に大きな達成感と喜びを感じ、私にとって本当に貴重な経験でした。

バルカーコリアは、もう事業部の後発ランナーのままではいられませんでした。より頑張って他拠点の模範になり、良い提案をどんどん発信しないといけないと感じました。私たちバルカーコリア技術課が開発した特定設備は、既存設備の概念から発想を転換させた構造で、新拠点、マザー工場の新ラインにも導入され、全生産拠点の製造条件の合理化に貢献できました。

グローバルに活躍、未来の目標に導く

昨今、企業はより良い環境を求めて国境を越えて移動しつつあります。物や資金のみならず、知識と人も同じようにそのフィールドを世界に拡大していることから、本当に強い企業ならその強みを発揮して、世界中どこでも成功できると考えています。バルカーの名前は、バルカーを発展させてきた先人の努力があったからこそできたものですが、自分がそのモノづくりを引き継ぐ立場になった今は、同じように良い評価を得て、グローバルな競争力を伸ばし、名声を維持していくことが今の自分の使命だと考えております。

私はエンジニアとして現在の技術の発展に遅れないように常に努力していますが、最近の技術の進化はあまりに早く進んでいます。その全ての知識を適時に習得して現実に適用するためには、さまざまなハードルが存在します。製造現場はまだマンパワーの関与が多く、その部分の画期的な改善の提案と未来のスマート化・機械化をするためには技術の限界も何度も感じられ、苦悩する日々です。ただ、技術・科学の発展による世界の変化は逃れられない流れとなっているので、現状に甘



バルカーコリア 製造部 技術課長
金 榮柱 (キム ヨンジウ)

2013年4月バルカーコリア入社後、シール製品の生産拠点拡大のための、生産移管業務を担当。2016年には、それまで日本人が担っていた課長に就任し、製造の合理化や他拠点への展開にも取り組む。

んじることなく、未来と未知に挑むチャレンジング精神で真に役立つ技術開発や、新しいチャンスを見つけるような人材に成長していきたいと思っています。

持続可能な社会の実現のために

韓国工場の立ち上げ当初、従業員に新しい価値観や外国の組織文化を取り入れることは、最初は否定的な意見もあり、なかなか前に進まない焦りもありました。どうやって浸透させていけばいいのか非常に悩みました。2019年度韓国で開かれた「THE VALQUA WAY」浸透推進フォーラムで瀧澤CEOにその悩みについて相談した際、管理職の本気度が会社を動かす鍵となること、ゆえに自らが諦めずに「THE VALQUA WAY」に基づき動き続けることこそ、結果を生み、改善を進めていくことができると教わりました。

私は、創業100周年のありたい企業像、人類の豊かさや地球環境に貢献するため「未来と未知に挑むチャレンジングな企業」の実現に向け、自分にとっての新たなチャレンジとして、SDGsの取り組みに力を入れていきたいと考えています。また、CXを行うことで内部からの体質を変えていくことも目指します。企業の持続可能な価値を作っているのは、私たち自身です。そして皆が見えない企業価値を信頼する心を持つ時、今日よりも良い明日のために貢献したいというエンゲージメントが高まると思います。同時に、社会から応援される企業、社会に貢献できる企業、バルカーの創業100周年のありたい企業像が実現されると思います。その時まで自分を信じて、グローバルで活躍し、世界に目を向け、「THE VALQUA WAY」の価値創造に向けてバルカーで働く皆と一緒に歩んでいきたいと考えています。



バルカーコリア 製造部 技術課の課員と共に

変化の激しい環境だからこそ、大切なビジナリー経営

～企業理念「THE VALQUA WAY」理解と実践活動～

貢献するSDGs



企業理念「THE VALQUA WAY」について

バルカーグループは、1927年の創業以来、社名の由来である「Value & Quality (価値の創造と品質の向上)」に対するあくなき追求を続け、工業用シール製品、ふっ素樹脂製品のパイオニアとして、社会の発展へ寄与してまいりました。

基本理念の「Value & Quality」は、当社グループ企業活動の概念であり、また4つの経営理念「社会の発展のために」「正正堂々と」「世界中のステークホルダーへ」「独創的技術で」は、当社グループの存在意義であり、大切にしている価値観です。企業理念「THE VALQUA WAY」は、この基本理念「Value & Quality」と「4つの経営理念」、そして、バルカーグループの全従業員が日々の行動の中でとるべき考え方や、あるべき姿を標した「行動指針10項」の3つで構成されています。

「THE VALQUA WAY」の起源は、96年前の昭和の創業時に遡ります。当社は1927年（昭和2年）1月21日に自動車および各種高速機械用ブレーキライニングの製造を行う、日本ブレーキライニング製作所を大阪府八尾市に設立したことから始まります。その後1932年（昭和7年）日本バルカー工業となり、日本で初めて合成ゴムパッキンとふっ素樹脂の製品化を次々に実現し、価値の創造と品質の向上を形にしていきました。シールエンジニアリングのパイオニアとして、戦前から戦後の復興に貢献してきた当社の技術と製品は、先人たちの価値と品質へのあくなき追求によってその後も発展をとげ、1992年の基本理念「Value & Quality」、2000年の企業理念「THE VALQUA WAY」の制定につながります。



2009年行動指針10項発表時の様子



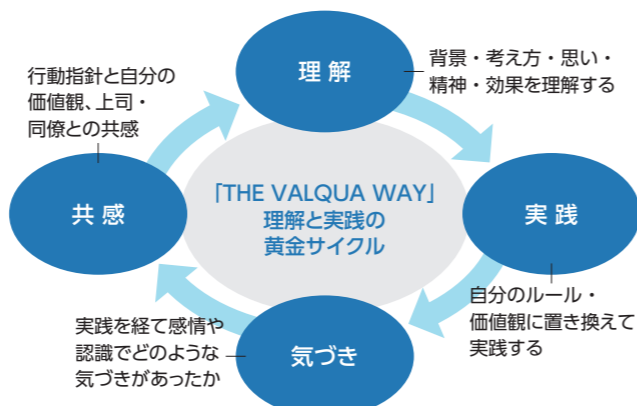
韓国でのCEOラーニングの様子

「THE VALQUA WAY」は、顧客感動やチャレンジ精神をより追求する攻めの側面と、コンプライアンス、ルール遵守をより重視する守りの、2つの側面を持ち、従業員が自分自身の行動指針「MY VALQUA WAY」として、「理解」「実践」「気づき」「共感」の黄金サイクルを回し、体現していく必要があります。この結果、例えばお客さまに信頼を寄せていただき、それにより、従業員の働き甲斐やエンゲージメントの向上へつながることで、「THE VALQUA WAY」が目指す真の姿に近づいていると言えます。

▼ 「THE VALQUA WAY」の制定年



▼ 「THE VALQUA WAY」理解と実践の黄金サイクル

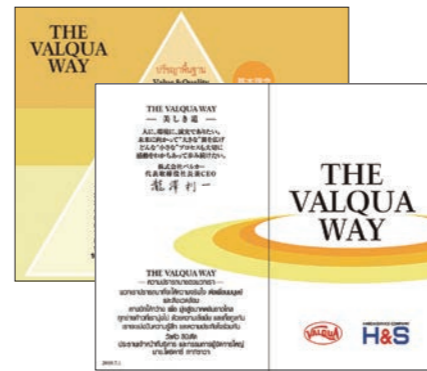


「THE VALQUA WAY」の理解と実践活動の推進

「THE VALQUA WAY」の黄金サイクルを回す、すなわち実践活動を全社で推進していくために、2008年を「企業理念実践の年」とし、「バルカーグループ企業理念実践発表会」をスタートしました。その後、名称を「THE VALQUA WAY 理解と実践活動」に変更し、毎年活動を行っています。

「THE VALQUA WAY 理解と実践活動」では、バルカーグループの全従業員が、自ら設定したテーマに沿った実践活動を行い、その結果をレポートで報告します。その後、書類選考と予選会を経て、全社大会出場者が決定します。全社大会は毎年、当社の創業記念日である1月21日に開催、国内外の出場者が東京に一堂に会し、その活動の報告発表を行います。また2010年度からは、より職制に合わせた理解と実践活動をするために、「経営基幹職」と「一般社員」部門に分けて審査を行っています。

加えて、従業員一人ひとりに携帯用の「THE VALQUA WAY」カードを配布するなど、「THE VALQUA WAY」を着実に浸透させるためのツールの提供も行っています。海外拠点用にも「THE VALQUA WAY」カードを翻訳し配布、全従業員のパソコンのスクリーンセーバーと壁紙には「THE VALQUA WAY」の体系図を言語別で表示するなど、グループ全従業員が理解できる仕組みづくりを行っています。さらに、前年までの全社大会の入賞者の発表動画をイン



携帯用「THE VALQUA WAY」カード(タイ語)

トラネットで視聴を可能とし、個人の活動内容を上司に相談する機会を設け、活動のレベルアップを図っています。

こうした階層別の実践活動以外に、「THE VALQUA WAY」の理解を深めさせるために瀧澤CEO自らが従業員と直接話す機会として、少人数でのCEOラーニングも積極的に行ってきました。さらに、バルカーグループの健全で持続的な成長を確実なものにするため、2019年9月には、瀧澤CEOを委員長とした「THE VALQUA WAY 浸透推進委員会」を設置しました。日本のみならず海外拠点で管理職を一斉に集めた「THE VALQUA WAY フォーラム」、少人数による「THE VALQUA WAY ラーニング」を実施し、国内外グループ各社や階層別の浸透活動を実施しています。こうした各地での活動の結果、各拠点での創意工夫を引き出しています。その一つとして、中国上海の拠点では「THE VALQUA WAY」行動指針10項に基づいた現場方針10項を作成し、より現場の従業員に寄り添った浸透活動を実践しています。

持続的な成長を実現するために

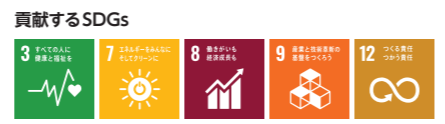


2020年度全社大会の様子(オンラインでの開催)

2020年度は新型コロナウイルス感染症の対策として、2021年1月21日開催の全社大会は、初のオンラインにて開催するなど、日々の実践活動と予選大会、全社大会の開催と運営も大きな変更を余儀なくされました。一方で、コロナ禍の逆境にあっても、長年の実践活動によって従業員の中に蓄積し、成熟してきた「THE VALQUA WAY」が、価値判断や行動の強力なバックボーンになっていることを確認でき、ビジナリー経営の一貫した取り組みが間違いでなかったことが証明されました。

アフターコロナの将来を見据えたCXが迫られる中、これまで「THE VALQUA WAY」を中心としたビジナリー経営で培った強固な基盤のもと、勇気と覚悟を持った変革を進めていくことができると考えています。今まさに、中期経営計画「New Frontier 2022 (NF2022)」の基本方針で掲げている、「創業100周年を超えて、次の時代にさらなる健全で持続的な成長」を実現するために、グループが一丸となって大胆でダイナミックな事業基盤の再構築に取り組んでまいります。

コーポレートガバナンス



01 >> 企業理念の浸透

「THE VALQUA WAY」理解と実践活動

バルカーグループでは、グループ共通の企業理念「THE VALQUA WAY」を羅針盤として、日々の業務に取り組んでいます。グループ（8つの国と地域、バルカーおよび連結子会社18社）の従業員一人ひとりが、変革や改善のために現状の仕事に対する問題意識を持ち、自らの言葉に落とし込んだ「MY VALQUA WAY」として理解を深め、実践につなげています。

また、この内容を共有する場として実践発表会を実施しています。「THE VALQUA WAY」を理解して、いかに業務で実践できたかを発表するものです。国別・階層別に予選会を行い、一般職の従業員は毎年1月21日の創業記念日に予選を勝ち抜いた代表者による全社大会を開催しており、2020年度で13回目の開催となりました。また、一般職と別に開催してきました経営基幹職実践発表会は、職責に相応しい実践活動テーマとするため、グループ会社の社長職とそれ以外の経営基幹職の予選を別々に開催する、新たな取り組みを行いました。

2020年度はコロナ禍での活動となり、昨年立ち上げた「THE VALQUA WAY 浸透推進委員会」によってCEOが国内外の事業所、関係会社で行うCEOフォーラムは中断し、またCEOが幹部社員に行っているCEOラーニングはオンラインで開催するなど、運営上多くの制約を受けた1年でした。一方で、長年一貫して取り組んできた「THE VALQUA WAY」の真価を認識できた1年でもありました。コロナ禍でリモートワークや社内外のコミュニケーションに制約を受ける環境下でも、従業員の中で判断基準と行動指針となってきた「THE VALQUA WAY」によって、自ら考え判断することを容易にし、スピード感を持って業務を行うことができたためです。

1992年に基本理念「Value & Quality」、2000年に企業理念「THE VALQUA WAY」を制定し、2008年を「企業理念実践の年」として継続してきたビジョナリー経営が、逆境下でその価値を発揮し、当社の揺るぎない基盤、強みとなっていることを確認できました。今後も変化する環境下で、バルカーグループを挙げて、ひた向きかつ覚悟をもってビジョナリー経営の推進に取り組んでいきます。



2020年から新たに実施したグループ会社社長職の予選会。感染予防対策としてアクリルパネルを設置



経営基幹職実践発表会。海外からテレビ電話で発表した様子



全社大会の国内海外グループ会社の入賞者たち

02 >> コーポレートガバナンスの強化

コーポレートガバナンス

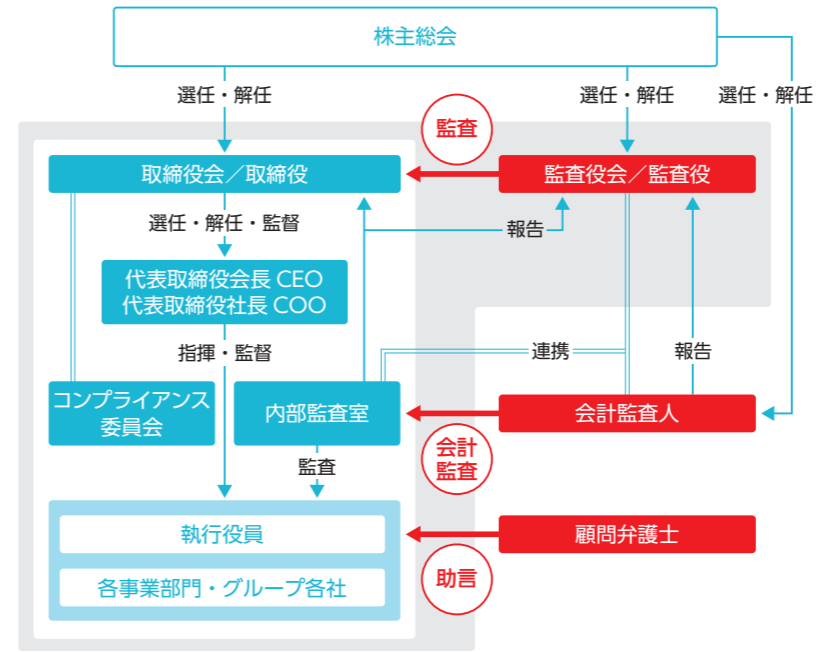
■ 基本的な考え方

バルカーグループは、企業理念である「THE VALQUA WAY」のもと、シールエンジニアリングのパイオニアとして、企業の持続的な成長による企業価値の向上を実現するため、透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行うための経営体制を構築し、最良のコーポレートガバナンスを追求し、その充実に継続的に取り組んでまいります。

▼ 取締役会・監査役会の構成 (2021年6月1日現在)

取締役	7名 (男性5名、女性2名) うち社外取締役3名 (男性1名、女性2名)
監査役	3名 (男性3名) うち社外監査役2名 (男性2名)

▼ コーポレートガバナンス体制図



(2021年6月1日現在)

■ コーポレートガバナンスの状況

経営環境の急激な変化に迅速かつ的確に対応するため、執行役員制度を導入し、取締役と執行役員の役割を分離した機動的なグループ経営体制を確立しています。また、公認会計士1名、弁護士1名を含む監査役が、取締役および執行役員の業務執行について監査を行うことで、経営に対する専門性の高い監視・監査機能を果たしています。

■ 内部監査室

グループの事業活動全般に関して内部監査を実施するため、取締役会直轄の業務執行部門から独立した内部監査室を設置しています。内部監査室は年間監査計画に基づき、内部統制、コンプライアンス、リスクマネジメントなどの幅広い観点から監査を実施し、評価・提言を行っています。

内部統制システム

■ 業務の透明性と信頼性を確保

透明性の高い業務プロセス、適切なリスク管理体制を構築することによって、内部統制システムの整備・推進に努めています。会社法などに基づく「内部統制システムに関する基本的な考え方」を取締役会で決議し、この内容を外部環境・内部環境の変化に応じて適宜見直しています。また、金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制報告制度への対応として、内部統制の体制構築、社内規定・規則や業務プロセスの整備・評価・改善を行っています。

その一環として、財務報告が有効である旨を記載した内部統制報告書を監査法人による適正意見を受けた上で開示しており、財務報告の信頼性を確保するための取り組みを継続しています。

03 >> グループグローバルな活動の推進

グループグローバルな活動の推進

■ グループ一体となったCSR活動推進

バルカーグループは以前より、企業理念「THE VALQUA WAY」のもと、「H&S事業を軸とした活動」「ボールルームダンス支援」「地域社会に対する感謝の日」など、国内外のグループ会社が一体となって取り組みを行ってきました。「バルカーグループCSR推進委員会」では、2019年に設定したCSR重要課題15テーマに、2020年から開始した中期経営計画「New Frontier 2022 (NF2022)」に沿って、新たに「人材育成」を追加し、全16テーマでの活動を推進しています。さらに2020年度「企業活動とSDGs目標」の紐付けを行い、「本業（H&S事業）を通じた社会的課題解決（攻め）」と「経営基盤（ESG）の強化（守り）」に、「社会貢献活動」を

合わせた3つを軸とした活動を推進し、SDGs 貢献への取り組みを強化しています。

今後もさまざまな社会課題の解決に向けて、グループ一体となった活動を推進していきます。

SHE 推進体制

■ グループSHE 委員会

バルカーグループでは、グループSHE委員会を設置し、SHE（安全、健康、環境保全）を一元的に管理しています。CEOを委員長、COOを副委員長とし、各グループ会社・事業所を担当する執行役員を委員としています。SHE委員会は年1回以上の開催とし、バルカーグループのSHE活動の「年度方針」「活動計画」の決定や「活動状況」の確認を行っています。また、その内容を各グループ会社・事業所に設置したSHEチームに展開し、グループ全体で取り組んでいます。

SHE 推進体制図

http://www.valqua.co.jp/social/safety_health_environment/



04 >> ステークホルダーとの対話

バルカーグループは、健全で持続的な成長を実現するため、「THE VALQUA WAY」のもと、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを通じて、信頼関係の構築を図るとともに、継続的な企業価値の向上を目指します。

ステークホルダー	ステークホルダーへの対応	主なコミュニケーションの方法
お客さま	H&S企業として、開発・調達・生産・営業のバリューチェーン全体で、お客さま視点に立った真のサービスソリューションを通して、お客さま価値の最大化の実現を目指しています。	●営業活動全般 日々の営業活動／販売店懇親会の開催／展示会の開催／お客さまのお問い合わせ対応／CSアンケートの実施
株主	適切かつ公正な情報の開示を実施し、株主・投資家など株式市場関係者との建設的な対話を積極的に行っています。対話により得られた意見などを経営にフィードバックし、持続的な企業価値の向上の実現に活用しています。	●IR活動全般 株式市場関係者との対話／株主総会・決算説明会の開催／IRツール・資料の発行
取引先（調達先）	公平・公正、法令遵守、環境配慮、相互信頼を基本とした、CSR調達の推進に取り組んでいます。	●購買活動全般 取引先との会議／CSR調達アンケートの実施
従業員	安全衛生の確保、人権の尊重、ダイバーシティ推進を基本として、従業員が最大限に能力を発揮できる職場環境づくりに取り組んでいます。	●従業員エンゲージメント活動全般 従業員エンゲージメント調査の実施／自己啓発学習の支援／労使協議会の開催／社内通報制度による通報案件への対応／企業倫理ホットラインの開設
地域社会	グローバル社会、地域との共生を目指し、環境負荷の低減、社会貢献活動に取り組んでいます。	●社会貢献活動全般 スポーツ振興支援を通じた社会貢献／地域社会に対する感謝の日／従業員によるボランティア活動／地域社会・NPOとの対話、寄附活動

コンプライアンス

貢献するSDGs



05 >> 汚職・贈収賄の防止

リスクマネジメント

■ 基本的な考え方

バルカーグループはステークホルダーとの信頼関係を維持し、事業を安定的に継続していくために、多様化するリスクとその影響を的確に把握し、コントロールできる管理体制を構築しています。

2020年度から新たにスタートした中期経営計画（NF2022）においては、選択と集中による既存事業の領域の収益拡大と新規事業領域の獲得による事業基盤の再構築を目指すとともに、組織単位でのリスクマネジメントとコンプライアンスの自律的遵守の強化をアニュアルポリシーで掲げ、取り組んでいます。

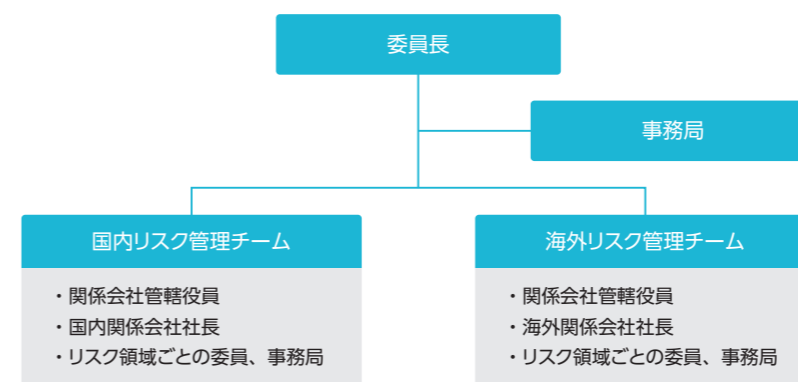
■ リスク管理体制

バルカーグループはリスクマネジメントを強化するため、「リスク管理委員会」を設置し、国内外の事業環境の急激な変化と事業領域の拡大に伴って多様化するグループ経営上のリスクを一元管理しています。

2020年度、大規模災害など事業の継続を脅かす事象が発生した場合に、グループの統制をとり迅速に対応するため、事業継続計画（BCP）マニュアルを策定し、運用を開始しました。

これからも、多様化するリスクに備え、リスクマネジメントの強化を図ってまいります。

▼ リスク管理体制



(2021年6月1日現在)

■ 知的財産権管理

バルカーグループは、経営理念の一つに「独創的技術で」を掲げ、この独創的技術とサービスを融合させた「真のソリューション提供企業」への脱皮を目指しています。知的財産部では、企業活動で創出される価値を適切に保護し、お客さまの課題解決につながる製品やサービスの提供を支援しています。また、他者の知的財産権を尊重するために社内ルール・体制を整備し、自社製品やサービスが第三者の知的財産権を侵害しないよう、研究開発のさまざまな段階で調査を徹底しています。この調査は、知的財産部と研究開発部門の協力体制のもとグローバルに行うことで、国内のみならず海外においても、知的財産権の尊重を徹底しています。

■ 国内外グループ会社における法令等の遵守

バルカーグループは、グループ全体の法令等の遵守を確実なものにするために、法律事務所、コンサルタント、法令情報提供サービス会社等の支援を受けながら、国内のみならず海外子会社に適用される関連法令を調査し、法令を遵守した業務の遂行を実践しています。国・地域ごとにその内容が大きく異なる法令等の遵守を徹底すべく、グループ全体で万全の態勢で臨んでいます。

腐敗防止

■ 贈収賄防止の徹底

バルカーグループでは、全従業員に対して贈収賄防止の観点から周知を行うとともに、国内外の贈収賄規制に適切に対応するために、必要に応じて規定の見直しを行っております。また、国内・国外を問わずグループ全体の監査を実施し、贈収賄防止の徹底を図っております。

06 >> 法令等の遵守

コンプライアンス

■ 基本的な考え方

バルカーグループにおける「コンプライアンス」とは、法令遵守にとどまりません。他の企業の模範となるべく積極的に法令や条例以上の企業倫理を遵守し、社会貢献や環境への配慮にまで踏み込んだ企業行動の実践によって、ステークホルダーの要求・信頼に応え、社会における信頼を勝ち得ていくことだと考えています。このコンプライアンスの重要性を理解し実践することが、バルカーグループの持続的な成長・発展を約束するものであると固く信じています。

■ コンプライアンス・マニュアル

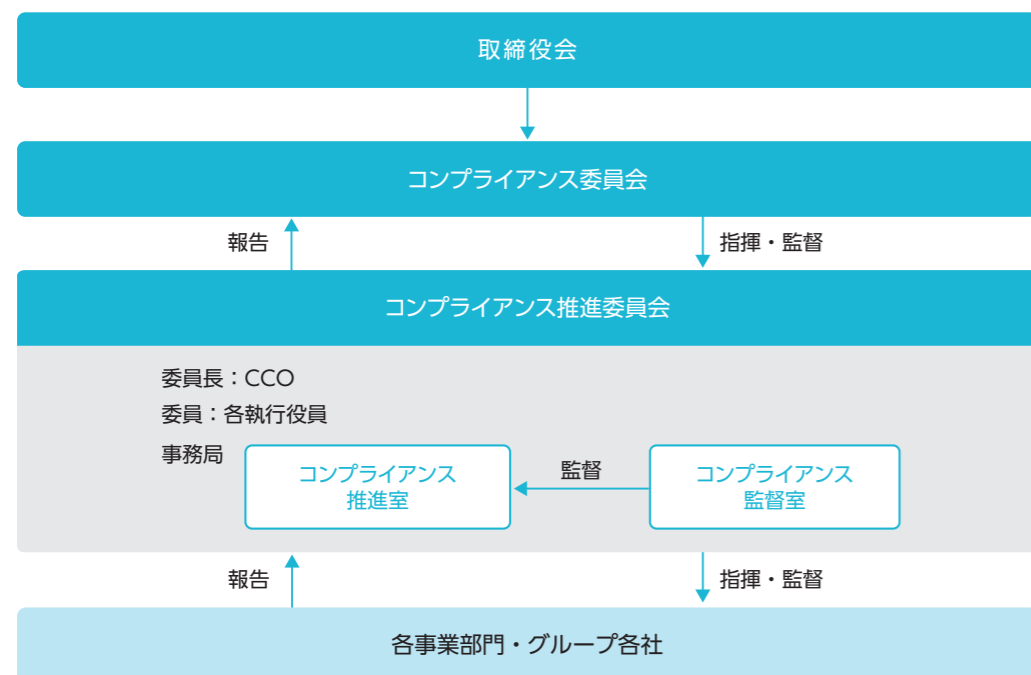
全グループ従業員の業務の指針とするため、コンプライアンス・マニュアルを2003年に制定し、6言語（日本語、英語、簡体字、韓国語、

タイ語、ベトナム語）に翻訳して共有してまいりました。本マニュアルは、法令・環境保全・情報管理・反社会的勢力の排除などの一般的事項をはじめ、営業活動・職場環境・私的行為（インサイダー取引・利益相反行為）に関して遵守すべき事項を記載し、全従業員が理解し、遵守すべきマニュアルとして活用してまいりました。

さらに、社会環境や要請の変化を踏まえ、具体的事例やチェックシートを盛り込むなど、コンプライアンス・マニュアルの内容を大幅に拡充させた「コンプライアンスハンドブック（日本語版）」および「ハラスメント防止のための行動ハンドブック（管理職・リーダー用）」を2020年5月に発行するとともに、2020年11月には役員向けに『企業経営とコンプライアンス—役員の経営責任と重要課題—』を発行しました。

海外拠点の実情を踏まえつつ、順次海外版の整備も進めていきます。

▼ コンプライアンス体制



(2021年6月1日現在)

■ コンプライアンス体制

コンプライアンス委員会、コンプライアンス推進委員会を設置し、コンプライアンス推進の最高責任者として任命された「チーフ・コンプライアンス・オフィサー (CCO)」を中心に、グループコンプライアンス体制の整備および向上に取り組んでいます。

コンプライアンス遵守のためのグループ体制の強化とリーガルマインドの醸成を基本方針とし、2018年度からはCCO管下にコンプライアンス監督室およびコンプライアンス推進室を設置し、推進と監督の両輪から、健全で持続的な会社の成長基盤づくりに貢献する体制へ変更しました。

■ 報告・相談・通報制度

全グループ従業員が、法令や社内規則などに関する報告・相談・通報ができる仕組みとして、①意見箱、②社内相談窓口、③CEOへのダイレクトライン、④外部企業倫理ホットライン（7カ国語対応）、⑤社外弁護士への相談窓口といった、各種窓口を設けています。

この制度は、通常の指揮命令系統から独立して運営し、情報の秘匿と報告・相談・通報したことによって従業員に不利益が課せられることがないように配慮しています。なお、本制度の2020年度の利用件数はコロナ禍のため減少し、2018年度、2019年度10件以上あった利用数が、2件にとどまりました。引き続き、利用減少の動向に注視しながら、適切な対応を行ってまいります。

07 >> 環境関連法令等の遵守

環境リスクマネジメント

■ 活動体制

2020年度は、国内外生産関係会社での環境法令違反は0件でした。また、全ての事業所で悪臭や騒音などによる近隣からの苦情発生はありませんでした。

国内外生産関係会社では昨年引き続きISO14001システムによる環境活動を実施しています。

近年世界的に環境法規制の法制化や改正、厳格化が進んでおり、特に弊社生産拠点がある中国は第14次5カ年計画による規制強化、ベトナムでは改正環境保護法が2022年に制定される予定です。

規制の把握および遵守のため、外部情報機関を活用しコーポレートより各生産関係会社をサポートし、また昨年度より実施開始の内部監査

を確実に行うことにより、違反未然防止の体制構築が進んでおります。

世界的にリスク管理強化が求められている製品含有化学物質については、chemSHERPA*により川下への情報提供を適切に行っています。

■ 各生産関係会社の法令遵守体制の整備・運用・監査の実施

国内生産関係会社では、ISO14001にて特定した法令一覧を共有し、月次で変化点を検証することで、各社の解釈間違い、見落とし防止を図る活動を継続しています。また海外生産会社がそれぞれ特定した法令についても、月次の変化点について、グループ全体で共有しています。

この法令一覧に基づく法令遵守内部監査体制を各社で整え、2020年度は国内生産会社、法規制の変化が大きい中国とベトナムから運用を開始しました。

※ chemSHERPA：製品に含有される化学物質情報を川上企業から川下企業までサプライチェーン全体で適正に運用するため、経済産業省主導で2015年10月にリリースされたデータ作成支援ツール、および、情報伝達ファイルの名称



08 >> 環境負荷物質の漏出防止と低減

漏出防止と低減のための取り組み

■ 2020年度事業活動に伴う環境負荷

バルカーグループでは事業活動におけるエネルギーや水などのINPUTや、エネルギー使用によるCO₂の排出、生産工程から出る廃棄物などのOUTPUTを把握することで、環境負荷の全体像を捉えています。

国内外のグループ会社から、正確かつ迅速に収集し一元管理するため、CSR情報収集システムを導入し、適正な温室効果ガス係数を用いて算定、開示するよう整備を進めています。

■ 水素エネルギー実用化に向けた取り組み

燃料電池自動車等では、水素の高圧貯蔵タンクへの貯蔵効率を向上させるため、圧縮水素のさらなる高圧化が進められていますが、水素の高圧化、低温化により、水素漏洩リスクの

増加という問題点が指摘されています。

バルカーグループでは、こうした問題点を解決するため、広い温度範囲で使用可能な高圧水素ガス用シール材の開発を行い、それに成功しました。

バルカーの強みである技術力で、水素エネルギーの実用化に向けて貢献してまいります。

■ CO₂削減のため、再生可能エネルギー発電の取り組み

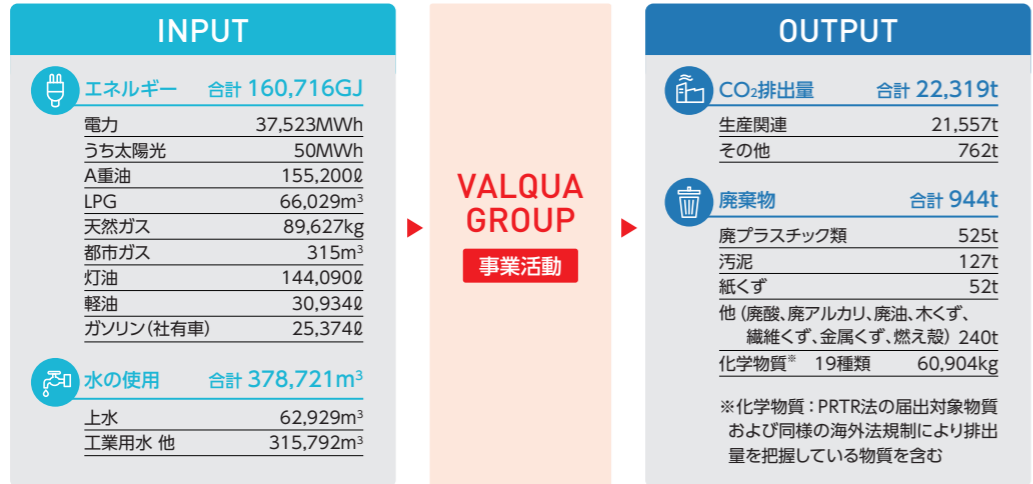
バルカーグループは、2013年から九州バルカーで保有していた遊休地に太陽光発電設備を設置し、再生可能エネルギー発電を行っています。これにより化石燃料を用いた火力発電で排出されるCO₂の削減に寄与しています。

■ 環境負荷物質低減への取り組み

バルカーグループは、事業上発生する環境負荷物質削減の取り組みはもちろんのこと、使用済シリコンウエハーを再生する事業や、太陽光発電等によるCO₂削減の取り組みにより、環境負荷物質の低減に取り組んでいます。

09 >> 事業上の環境負荷物質の低減

▼ マテリアルフロー



対象：バルカーグループの国内外事業所（一部、地方営業所、駐在所、海外の販売会社など規模の小さい29拠点を除く）
集計期間：2020年4月～2021年3月

主要な環境負荷の推移

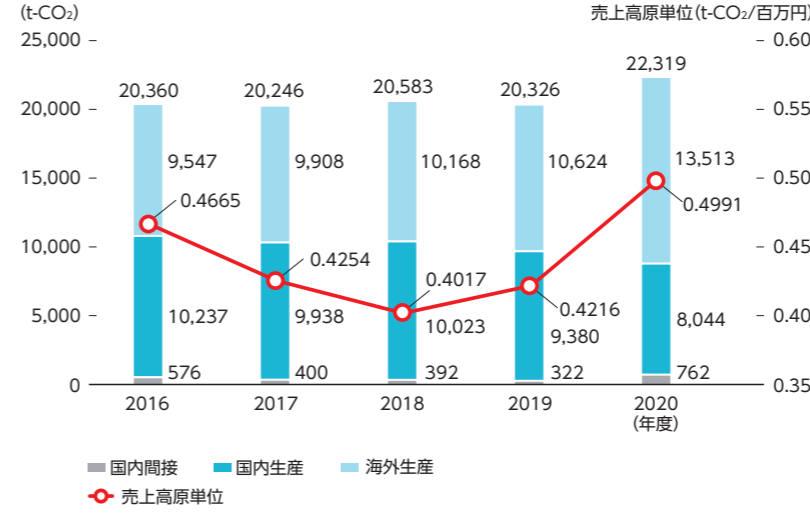
スコープ3
(2020年データ掲載予定)
<http://www.valqua.co.jp/social/environment/>



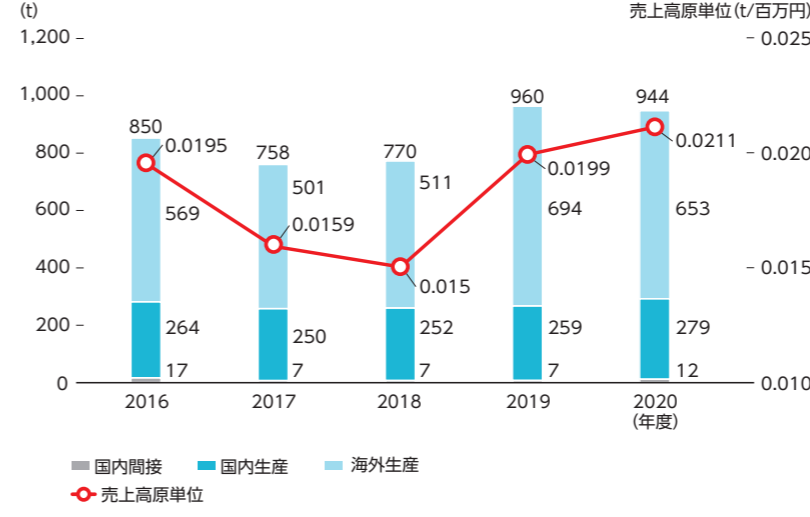
■ 温室効果ガス排出量 (スコープ1・2)

2020年度は2019年度に比べて絶対量で1,993tの排出量増。内訳は生産会社の構成再編の影響で1,485t減、合理化・原価低減活動

▼ 温室効果ガス排出量推移 (生産部門+間接部門)



▼ 廃棄物最終処分量推移 (生産部門+間接部門)



による温調管理の見直しや老朽化設備の更新の効果で218t削減しましたが、感染症対策のための換気による増加等で990t、集計範囲を拡大したことで371t増加しました。また、本年度より各国の電力排出係数を調査し算定したため、主に海外拠点の排出係数の影響により2,335t増加しました。この結果売上高原単位で18%の増加となりました。

■ 温室効果ガス排出量 (スコープ3)

2014年度よりサプライチェーン全体の温室効果ガス排出量の算定を始め、7年目となりました。スコープ3やその他環境に関するデータの詳細はホームページをご覧ください。

■ 廃棄物最終処分量

2020年度は2019年度に比べて絶対量で16tの排出量減。内訳は生産会社の構成再編の影響で62t減、合理化・原価低減活動による不良改善や歩留まり向上の効果で14t削減しましたが、生産品目構成の変化等の影響で60t増加した結果、売上高原単位で6%の増加となりました。

※温室効果ガス排出量は、「地球温暖化対策の推進に関する法律(温対法)」に基づく温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度の各燃料および電力の排出係数を毎年再確認し、算定しています。スコープ1は、事業者自らによる温室効果ガス直接排出、スコープ2は他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出、スコープ3は、スコープ1、2を除いて、原料調達から生産、販売、廃棄までにおける間接排出のことを指します。電力は、排出係数が明確でない海外拠点もあるため、一律に代替値を使用していましたが、2020年度は拠点毎の排出係数を調査し算定しました。

10 >> 労働安全衛生

安全衛生管理者の教育と訓練

■ ①法令遵守管理、監視レベル向上による法令違反撲滅

外部専門家による各工場への安全衛生監査や安全研修を実施し、危険箇所を事前に発見できるスキルの向上に向けた活動を推進しています。

■ ②ルール化と教育の徹底によるリスク排除

設備、作業、化学物質などのリスクアセスメントを推進し、定常・非定常作業のリスク排除に努めています。

安全衛生推進活動

■ バルカーグループ安全衛生の日

バルカーグループでは、5月18日を「バルカーグループ安全衛生の日」と定め、安全意識の高揚を図っています。また、7月の全国安全週間期間中にSHE (安全・衛生・環境) Weekを設定し、海外を含めたグループ全ての拠点で安全衛生環境活動強化のためのイベントを開催しています。

■ 積極的な安全衛生推進活動

バルカーグループにおいてもビジネスのグローバル化が進む中、国・地域ごとに異なる法規制や習慣などに伴うリスクが顕在化してきました。こうした国・地域ごとに異なる法規制や習慣に合った活動をきめ細かく、かつ遅滞なく行うことで、グループ理念の根幹である「安全衛生は全てに優先」を実現できると確信しています。また、健康経営の視点から従業員の健康づくりにも注力し、安全・衛生の両面から健康的で明るい職場づくりや産業医による保健指導を積極的に推進しています。

▼ 安全衛生環境強化イベント



九州バルカー、地元神社での安全祈願



タイバルカー、現場での安全な作業方法に関する展示



バルカー코리아、リモートで実施。安全・衛生・環境に関する意識強化のための動画も視聴

心と体の健康管理

http://www.valqua.co.jp/social/safety_health/



11 >> CSR調達

CSR調達の推進

■ CSR調達ガイドライン

バルカーグループは、社会・環境・人権などにも配慮した調達活動に取り組むべく、2016年に「CSR調達ガイドライン」を制定しました。企業理念「THE VALQUA WAY」と「CSRコンセプト」に基づき、「調達基本方針」として5つの方針を掲げています。サプライチェーン全体でのリスクを最小化し、健全な調達活動を推進します。

■ CSR調達アンケートの実施

サプライチェーン全体でのCSR調達を推進する活動の一つとして、各サプライヤーにおけるCSR推進状況を確認するための自己評価アンケートを実施しています。

2020年度からは、新たな取り組みとしてコ

ンプライアンス遵守の評価を厳格化するため、アンケートの設問を今までの20問から、コーポレートガバナンス、サプライチェーン、環境などの設問を増やした30問に拡充し、さらに、調査対象をこれまで実施してきた主要なサプライヤー以外のサプライヤーまで範囲を広げたアンケート実施をしています。

今後、さらに活動を推進していくため、アンケートの内容を精査するとともに、サプライヤーに対する個別の支援などを通じてCSR調達の実現に向けた継続的な支援・協働への取り組みを行ってまいります。

■ 紛争鉱物^{*}への対応

バルカーグループは、紛争鉱物への対応を企業の責務と捉えて、CSR調達ガイドラインに対応方針を定め、調達品の調査をしています。今後もサプライヤーと連携して、人権侵害に担当しない取り組みを強化していきます。

調達基本方針、

バルカーグループ

CSR調達ガイドライン

<http://www.valqua.co.jp/social/csrprocurement/>

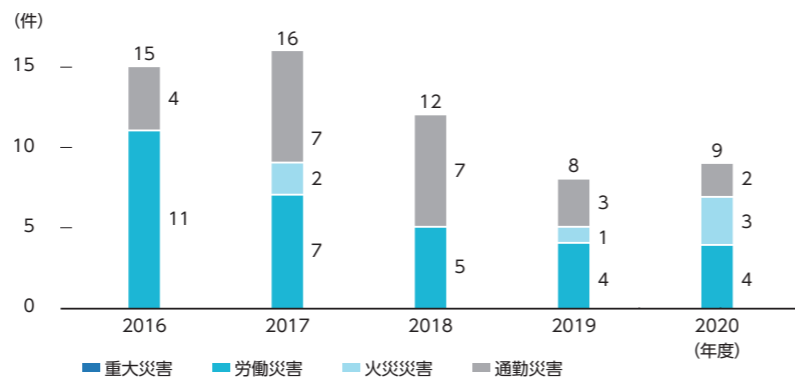


^{*}紛争鉱物：紛争地域で人権侵害、不正などを行う武装グループの資金源となる鉱物

▼ CSR調達アンケートの確認項目 (2020年度から10問追加し、30問に拡充)

項目	取り組み内容
CSR	●法令遵守・違法行為の予防 ●CSR推進 ●取引先への展開
コーポレートガバナンス	●内部統制 ●内部通報 ●適切な輸出入
公正取引	●腐敗(政治献金・寄付、贈収賄等)防止 ●優越的地位の濫用防止 ●不適切な利益の供与や受領の防止
情報・セキュリティ	●知的財産の管理 ●個人情報や、顧客の機密情報の管理 ●コンピューターネットワークへの攻撃に対する防御
サプライチェーン	●法規制、社会的規範、業界規範および規格の遵守 ●紛争鉱物(紛争地域産のタンタル、すず、タングステン、金とその派生物)の使用
人権	●人権の尊重 ●差別の禁止
労働	●採用時の差別の禁止 ●従業員への平等な機会の提供 ●禁止事項の遵守 ●労働時間、休暇、有給休暇の公正な適用
環境	●法令等で指定された化学物質の管理 ●排水・汚泥・排気の管理 ●資源の持続可能で効率的な利用 ●温室効果ガスの排出量削減 ●グリーン調達および廃棄物削減
安全衛生	●安全で健康に働ける環境 ●作業者の安全 ●災害への備え ●災害・事故発生時の体制
BCP	●事業継続計画への取り組み

▼ 災害発生件数



人材・人権



12 >> 人材の多様性確保

職場環境づくり・各種制度

■ 多様な国籍を持つ社員が活躍できる環境づくり

バルカーグループでは、外国籍社員の採用やグループ会社間での人材交流を積極的に行っています。社員がグローバルに活躍できる環境づくりを推進するため、海外赴任予定者への赴任前研修や赴任期間中のフォローを行い、日本で働く外国籍社員に対しては、日本語教育サポートの他、人事部内に外国籍社員を配置し、定期的な面談や悩み相談などのサポートを実施。言語や文化の垣根を越えて多様な人材が協働する中で、新たな刺激や気づきをえています。

柔軟な働き方を支援する制度

- 【新設】副業（短日勤務制度）
- リモートワーク制度（リモートワーク手当含む）
- 介護休業「連続取得期間を最長3年に」
- 1時間単位の有給休暇取得制度
- 子どものバースデー休暇
- 育児のための有給特別休暇
- 育児短時間勤務「子どもが小学校3年生に達するまで」
- 育児休業「2歳6カ月に達する日まで」
- フレックスタイム制度（コアタイム13:00～15:00）
- 介護短時間勤務
- キャリアリターン制度

(2021年6月1日現在)

■ エンゲージメント

創業100周年のありたい企業像「未来と未知に挑むチャレンジングな企業」を掲げていますが、これを実現するには、「受け身から攻めの体質」「失敗を恐れずチャレンジする体質」への転換が必要だと考えています。そこで「エンゲージメント」に着目し、全従業員とのエンゲージメントの向上を積極的に推進することにしました。バルカーグループ全社を対象に2020年8月に第1回従業員エンゲージメント調査を行い、その結果も参考にしながらマネジャー層向けの研修を実施しています。

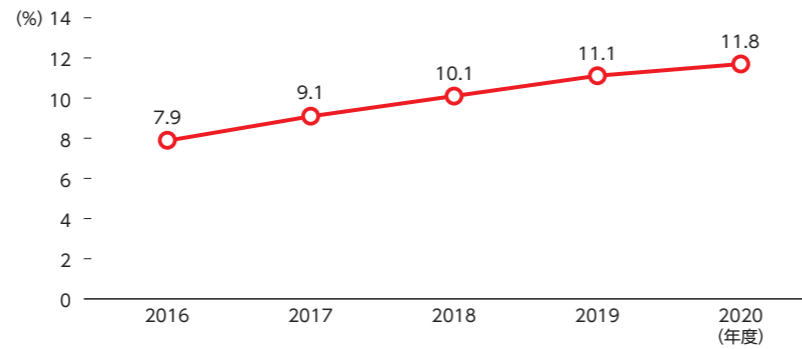
■ 性別を問わず活躍できる環境づくり

性別に関係なく多様な視点を取り入れることで、さらなるイノベーションの推進を図ります。特に、女性のキャリア開発と成長を支援するため、女性管理職比率の目標を定め、海外グループ会社の経営層などで積極的な登用を行っています。

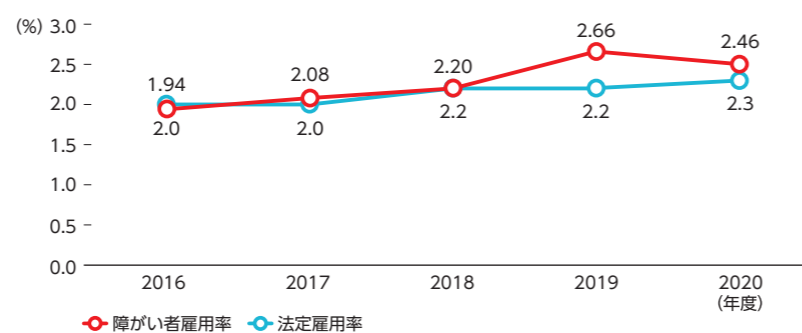
■ 障がい者雇用の推進

地域との共生を目指しバルカーグループでは、地元の特別支援学校などから障がい者の企業実習を積極的に受け入れています。障がい者の方に働くことの楽しさや意義を伝えるとともに、入社後の職場定着と自立を支援しています。

▼ 女性管理職比率 目標：2020年度までに10% 2027年度までに15%



▼ 障がい者雇用率 目標：法定雇用率以上



バルカーグループ人権基本方針

http://www.valqua.co.jp/social/human_resources/



13 >> 人権の尊重

人権の尊重

バルカーグループでは、2017年3月に、国連グローバル・コンパクトも踏まえながら「バルカーグループ人権基本方針」を策定しました。この方針のもと、GRIスタンダードを参考にアセスメントシートを作成し、年1回の頻度でグループ各社などに調査を行い、グループ全体の人権基本方針の周知と理解度の確認、および人権に関する取り組み状況を確認しています。

この結果を分析し、各グループ会社が自主的に人権問題の把握や防止・対処ができるようにサポートしながら、人権に対するさらなる意識向上とダイバーシティの推進を図ります。

上とダイバーシティの推進を図ります。

なお、2020年度は、海外グループ会社においても、管理職に対して人権尊重に関する研修を自主的に開催するなどの取り組みを行いました。



タイバルカーにおける人権教育（ハラスメント）

14 >> 人材育成

人材育成

バルカーグループでは「人材開発宣言」「人材開発方針」に基づき、多種多様な研修プログラムを提供しています。これらをバランスよく組み合わせ「求める人材像」に掲げる人材の開発・育成に取り組んでいます。

2020年度から開始した中期経営計画「New Frontier 2022(NF2022)」を反映し、CSR重要課題に新たに「人材育成」を加え、CEO塾、早期選抜研修、海外幹部研修などにより、近い将来、グループ役員クラスを担う人材、拠点経営を担うコア人材の開発を強化しています。

人材開発宣言

<http://www.valqua.co.jp/recruit/training/#sengen>



人材開発方針

<http://www.valqua.co.jp/recruit/training/#hoshin>



多種多様な研修プログラム

1. グローバル化に向けた人材育成
2. 早期選抜による人材育成
3. 階層別研修
4. 職種別研修
5. 自己啓発

求める人材像

- 企業理念「THE VALQUA WAY」に共感できる人
- グローバルな視点で判断や行動のできる人
- 学習と成長への強いこだわりを持ち、自ら考えながら、新たなことに挑み続けることができる人
- スピーディーな判断力や行動力を有し、時代の変化・変革を先取りして果敢にチャレンジできる人

■ 通信教育等の自己啓発支援プログラムの充実

バルカーグループでは従業員の自律的な成長を支援するため、自己啓発プログラムの充実に取り組んでいます。通信教育では、毎年、特集コースを設定し、受講料全額補助などを行っています。また、オンライン公開セミナーやオンライン英会話に対する支援制度なども設けています。

■ 目標管理と人事評価の仕組み

バルカーグループの従業員の目標は年度方針や部門ミッションをもとに設定しています。「THE VALQUA WAY」と階層別の「求める人材像」に則って日々の業務に取り組みながら、部署内で部下と上司が話し合っって最終目標を設定します。成果は部下の自己評価を上司がコミュニケーションを取りながら評価し、課題と改善点を明確にして次に活かすなど、バルカーグループの持続的成長に向けた人材育成につなげています。

15 >> 品質の向上と顧客の安全・安心

品質保証体制と方針

バルカーグループでは、「グループ品質保証委員会」を組織し、グループ全体を統括するグローバル体制を構築しています。国内外の生産関係会社や販売関係会社を管轄する事業部・本部をはじめとして、調達部門や生産技術部門など品質に関わる各部門責任者で構成し、その決定事項の具体的な展開を指示すると同時に日々の実行に責任を持つことで、グループ全体の実効性を高めています。

また、「品質方針」に基づいて、組織ならびに従業員一人ひとりが具体的な目標を掲げ、品質向上活動に取り組んでいます。その上で、関連法規制を遵守、お客さまの求めに合致した品質を担保し、安全な製品とサービスを提供しています。

顧客の安全・安心のためのサービスの開発と普及を推進

バルカーグループでは、シール製品の製造販売にとどまらず、お客さまの要望に合わせてシールトレーニングを進化させ、プラント事故の一因でもあるシール締結に関する漏えいトラブルを減らすための技能者育成支援に取り組んでいます。

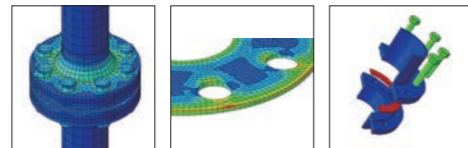
また、これまで培ってきた独創的技術とIoT等のスマート技術を融合させたシールエンジニアリングサービスを推進しています。

プラントの保安技術高度化ニーズに応える形で各種サービスの開発、展開を加速させて、全てのお客さまの安全・安心に貢献していきます。

評価技術

シール製品の使用環境は多様であり、全てのお客さまを対象に評価・検証を行うことは、現実的に困難でした。バルカーグループでは、こうした課題に対して、FEA（有限要素解析）を用いて使用環境をコンピューター上で再現・検証する次世代評価技術の開発に取り組んでいます。

この取り組みにより、これまで困難であった大口径装置、高温や高圧条件での検証が可能となり、漏えいや破壊などシール製品における不具合の原因究明や再発防止のための設計提案を行っています。今後もこの技術開発に積極的に取り組み、全てのお客さまの安全・安心に貢献していきます。



三次元解析

■ シール製品検索ウェブサイト『Seal Quick Searcher』

製品選定に悩むお客さまの要望にお応えし、選定ミスによるトラブルを防止するため、多様な切り口での製品検索サイトを開設しています。流体・温度・圧力などの使用環境、キーワード、産業分野などから当社推奨製品を検索できるサービスや、取り扱いに必要な締付け力の自動計算サービスなどによって、今すぐ最適な製品を選定したい、必要な情報だけを用いて技術資料を作成したいというお客さまの個別課題をリアルタイムに解決。今後も本サイトの充実を図り、幅広い視点でお客さまの期待に応えていきます。

品質方針、品質マネジメントシステム

http://www.valqua.co.jp/social/safety_quality/



現代ガスケット概論

ガスケットとボルト締め、フランジ継手の技術的基礎をわかりやすく説明した業界初の「ガスケット解説書」

<http://www.valqua.co.jp/technical/gasket-introduction/>



バルカー技術誌「バルカーテクノロジーニュース」

<http://www.valqua.co.jp/tech/technical/>



※「Seal Quick Searcher」は当社ホームページまたは、下記QRコードからご利用いただけます。

<http://www.seal.valqua.co.jp/seal/>



16 >> スポーツ・文化・芸術の振興 地域社会との共生

スポーツ振興支援

■ 「ボールルームダンス」振興と感動体験

バルカーグループでは長年にわたり、人々の健康や生活を豊かにする「スポーツ」の振興支援に取り組んでいます。2014年からは、年齢や障がいの有無に関わらず誰もが楽しめる生涯スポーツである、「ボールルームダンス」の普及・振興を支援しています。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、当社グループが力を入れて支援を行っている「小・中・高校生ボールルームダ



「バルカーカップ統一全日本ダンス選手権」は、感染予防のためマスク着用で競技が行われた



半年遅れで開催された「全日本ブラインドダンス選手権」。視覚障がい者と健常者ペアが多数出場した

地域社会に対する感謝の日

世界中の人々とより豊かな未来を築いていくために、私たちに何ができるのかを考え、毎年「地域社会に対する感謝の日」を設けています。

世界中のグループ会社の各事業所・営業拠点・

工場で、地域社会に根差したボランティア活動を実施。2020年度は世界44カ所、総勢1,411人の従業員と家族が参加し、コロナ禍の折であるため、募金・寄付（寄贈）活動を主体に清掃活動や花壇の花植え活動などを行いました。



バルカーベトナム、養護施設への支援活動。支援品の目録を施設長へ贈呈



台湾バルカー国際、地域の清掃活動



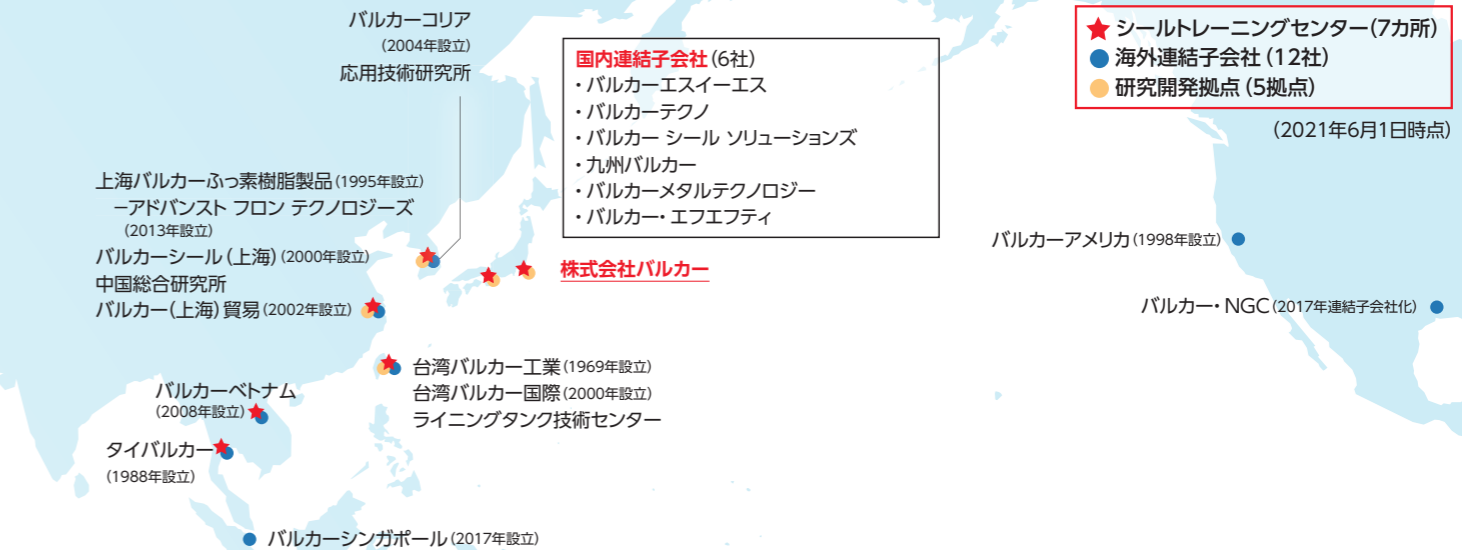
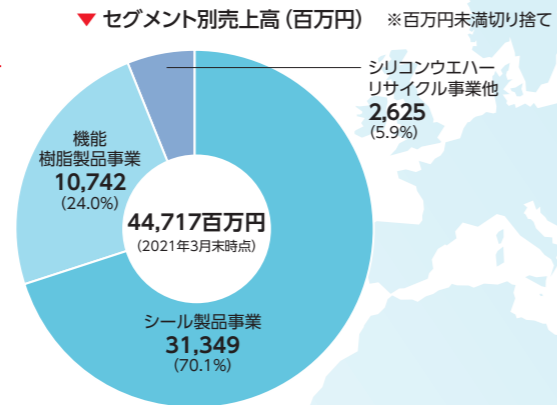
本社、周辺地域の花壇への花植え活動

真のグローバル企業を目指して 会社概要・拠点図

「Value & Quality」、当社の社名はこの2つの言葉を併せたものです。この言葉のままに、シール製品事業、機能樹脂製品事業、シリコンウエハーリサイクル事業などによって、「価値と品質」を世界中の皆さまにお届けしています。

グローバルネットワーク

バルカーグループの事業



シール製品事業

売上高
31,349百万円

売上高構成比
70.1%

バルカーグループの主力事業として、さまざまな産業向けに配管・機器用のシール材を提供しています。先端産業市場や機器市場、プラント市場に向けて新たな顧客価値を提供してまいります。

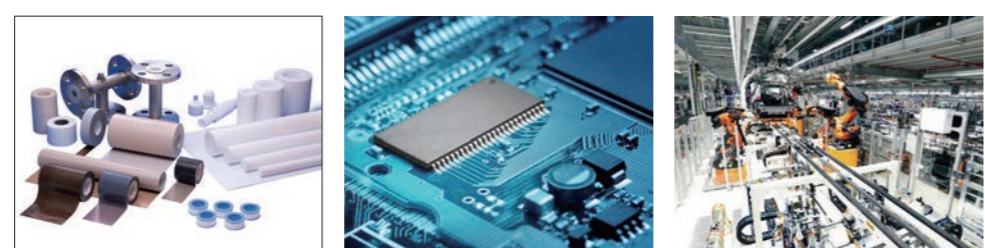


機能樹脂製品事業

売上高
10,742百万円

売上高構成比
24.0%

機能樹脂の優れた特性を活かして半導体装置・産業機械をはじめ多様な分野で使用されています。先端産業市場・プラント市場に向けた戦略製品を軸に、グローバルに価値を提供してまいります。

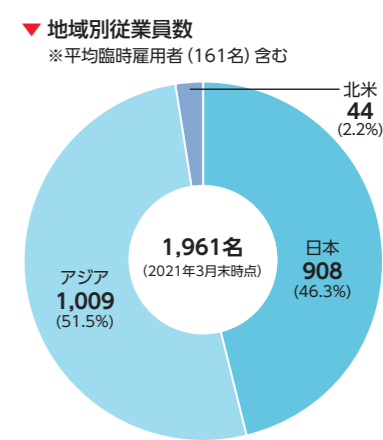
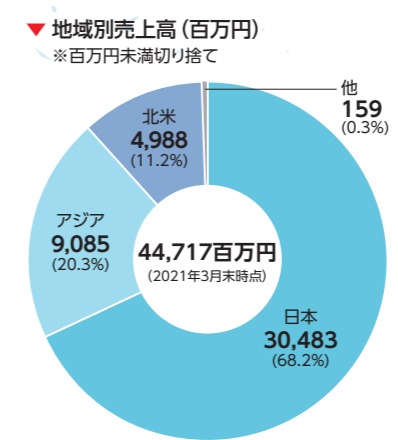
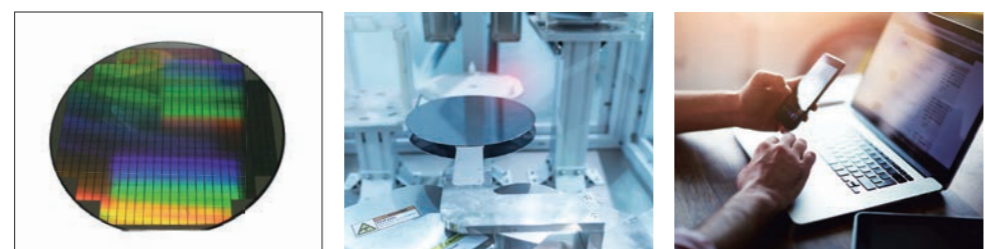


シリコンウエハーリサイクル事業他

売上高
2,625百万円

売上高構成比
5.9%

シリコンウエハーリサイクル事業などにより地球環境に貢献しています。今後は、H&S事業のさらなる進展により、新たな価値創造を具現化し幅広い産業に貢献します。



その他データについては、当社ホームページからご確認ください。
<http://www.valqua.co.jp/>



会社概要

株式会社バルカー

本社：〒141-6024 東京都品川区大崎二丁目1番1号 ThinkPark Tower 24階

創業：1927年1月21日
設立：1932年4月8日
資本金：13,957百万円

上場証券取引所：東京証券取引所市場第一部
従業員数：433名(グループでは1,800名、2021年3月31日現在)

事業内容：産業機器、化学、機械、エネルギー、通信機器、半導体、自動車、宇宙・航空産業など、あらゆる産業向けにファイバー、ふっ素樹脂、高機能ゴムなど各種素材製品を設計、製造、加工および販売

表紙について

バルカーグループは、安全・安心・豊かさを顧客に提供するための事業やボールルームダンス支援などのCSR活動を通じて、全ての子どもたちが活躍できる安全で安心な「明るい未来づくり」に貢献したいという思いから、子どもたちの写真を表紙に使用しています。バルカーグループの従業員から公募した、従業員の子どもの笑顔で表紙を飾りました。



Value & Quality



VALQUA GROUP

お問い合わせ先：株式会社バルカー

総務人事部 TEL 03-5434-7370 FAX 03-5436-0560

〒141-6024 東京都品川区大崎二丁目1番1号 ThinkPark Tower 24階

<http://www.valqua.co.jp>

